華麗に変身！ 青梅ほぐし織

～ 伝統の青梅ほぐし織技術でゆかたを開発 ～

●青梅ほぐし織って？

ほぐし織は「解し織」と書きます。

たて糸を並べ(整経)、ばらばらにならないようによこ糸を粗く織っておき(仮織)、その上から型版で柄をプリントします。その後、仮織したよこ糸を解しながら本織することからこの名がついたと言われています。

たて糸に柄をプリントするため、織るときに生じるたて糸のずれが柄の輪郭のギザギザを生み出し、柄全体がぼけたり揺らいで見えるのが特徴です。

この伝統的な技法を用いてつくられる青梅ほぐし織は、昭和20～30年代に当時の代表的な夜具地として一世を風靡し、青梅を中心に最盛期には600を超える業者が生産に携わったと言います。

●青梅ほぐし織ゆかたの開発

その後、生活様式の欧米化などによる需要の減少から業者も減り、現在では市内にわずか１軒を残すのみとなりました。

「このままでは青梅のほぐし織は消滅してしまう。何とか新しい製品ができないものか・・・。」唯一生産を続ける新井プリント(TEL0428-31-4337)代表の新井八郎氏の相談がきっかけとなり、新しい製品へのチャレンジが始まりました。

そして、もともとほぐし織の技法は銘仙などの着尺地に用いられその独特の柄には根強いファンがいること、青梅ほぐし織は通気性や肌触りの良さなどには定評がある綿織物で夏物衣料向きであること、さらにゆかたが夏のおしゃれ着として定着し、様々な柄が求められていることなどから、青梅ほぐし織ゆかたの開発へと結びつきました。

●コンピュータで柄をシミュレーション

ほぐし織は柄をプリントにより表すためデザインの自由度は比較的高いのですが、たて糸がずれることによって起こる柄の縁の揺らぎ方やその度合いによるイメージの変化、さらにたて糸とよこ糸との交わりによって生み出される色の出方など、織る前ではイメージしにくい部分が多くあります。

そこでコンピュータを用いて柄の揺らぎや色の出方などをシミュレーションし、デザインを開発しました。そしてそれを基に青梅ほぐし織ゆかたの試作品を開発しました。

●今後の展開

現在試作品は3柄2配色の6点。今後バリエーションを増やして市場を開拓していくとともに、巾着(きんちゃく)などの小物類、さらには将来的にシャツなどへの展開も視野に入れた開発も進める予定です。

八王子支所　藤田　茂
TEL 042-642-2778
E-mail:fujita.shigeru@iri-tokyo.jp

写真1　コンピュータを用いた
ほぐし織のシミュレーション

写真2　試作した青梅ほぐし織ゆかた

TIRI News
2006年６月号　通巻３号

発 行 日／平成18年6月20日（毎月１回発行）
発　　行／地方独立行政法人 東京都立産業技術研究センター
総務部情報システム課広報係
〒115-8586　東京都北区西が丘3-13-10　TEL03-3909-2151 内275
企画･印刷／株式会社和幸印刷
（転載･複製を希望する場合は、情報システム課 広報係までご連絡ください。）
この印刷物は石油系溶剤を含まないインキを使用しています。
古紙配合率100%再生紙を使用しています。